

システム脅威が地位に基づく相補的ステレオタイプの表明に及ぼす効果

－性・社会階層の調整効果：一般サンプルでの検討－

沼崎誠・李禕飛・朴建映・松崎圭佑（東京都立大学人文科学研究科）

キーワード：システム正当化，相補的ステレオタイプ，システム脅威，社会階層，ジェンダー

Mail: numazaki@tmu.ac.jp

問題と目的

○システム正当化理論

相補的ステレオタイプはシステム正当化と関連する ← 地位の高い人も低い人もそれぞれ弱みと強みがある

○先行研究

システム脅威が顕現化すると地位に基づく相補的ステレオタイプの適用が増大（e.g., Kay & Jost, 2003; Numazaki et al., 2011）

○問題点 1. 多くの研究が相対的に社会的地位の高い参加者を対象

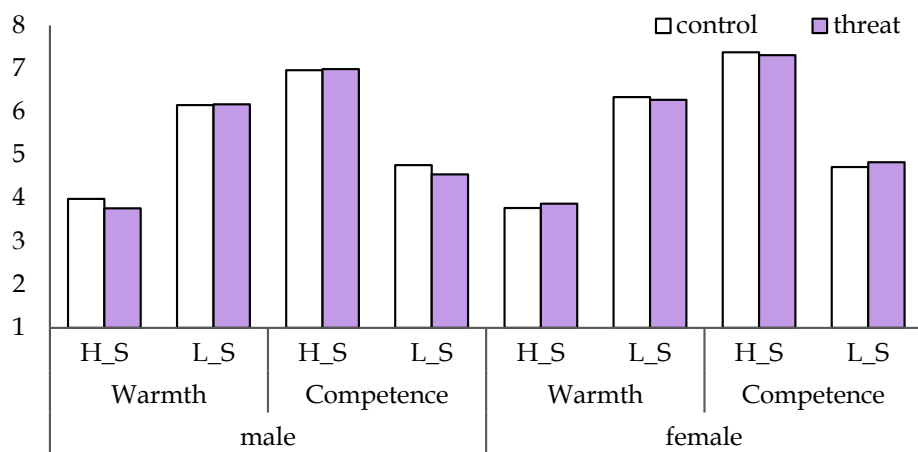
2. システム脅威の効果に関しては疑問があるというメタ分析（Sotola & Credé, 2022）

○課題 日本の一般サンプルで地位に基づくステレオタイプがシステム正当化の役割を果たしているかシステム脅威を操作し検討

○仮説 1. 地位が高い職業は低い職業に比べ相対的に有能だが冷たいという印象を持たれるだろう

2. システムに対する脅威が顕現化すると仮説1の傾向が強くなるであろう

Figure 1. 職業イメージ：性×脅威×職業地位×次元



方法

研究参加者：クラウドソーシングサイトで募集した398名

分析対象者：377名（男性184名, 女性193名）

※データ使用拒否/性別未回答/スクリーニング項目誤答者を除く
年齢：20歳～49歳（ $M_{age} = 38.50$, $SD_{age} = 7.02$ ）

システム脅威の操作

日本にとって経済的脅威と軍事的脅威となる国・地域を回答し、その理由もそれぞれ回答

職業イメージの対象

高地位職業：勤務医，企業法務弁護士

低地位職業：アパレル店員，保育士

イメージ測定（SD法8件法）

温かさ3項目，有能さ3項目，その他6項目

質問群

- ①社会階層（ラダースケール10段階）・性別・年齢
- ②システム脅威の操作
- ③職業イメージの測定
- ④個人差の測定（自尊心尺度・システム正当化尺度）

実験計画と手続き

1要因2水準の実験計画：質問群の順により操作

統制条件：①→③→②→④

脅威条件：①→②→③→④

探索的調整要因：社会階層，参加者性

結果

分析

主観的社会階層（標準化したラダースケール得点）×性（男 vs. 女）×脅威（脅威 vs. 統制）×職業地位（高(H_S) vs. 低(L_S)：内）×次元（温かさ vs. 有能さ：内）

仮説の検討

地位×次元（ $F(1, 369) = 2424.222, p < .001, \eta_p^2 = .868$ ）→ 仮説1支持

有能さ：高地位 > 低地位 温かさ：高地位 < 低地位

脅威×地位×次元（ $F(1, 369) = .100, ns, \eta_p^2 = .000$ ）

→ 仮説2 不支持

探索的調整要因の検討

主観的社会階層：調整効果は確認できない

性 1. 性×地位×次元（ $F(1, 369) = 10.705, p < .001, \eta_p^2 = .028$ ）

仮説1の傾向は女性の方が強い

2. 脅威×性×地位×次元（ $F(1, 369) = 5.121, p = .024, \eta_p^2 = .014$ ）

男性：脅威は相補的ステレオタイプ強化=仮説2支持

女性：脅威は相補的ステレオタイプ弱体化=仮説2不支持

※統制-脅威条件間の単純主効果は全て有意ではない

考察

結果のまとめ

1. 地位に基づいた相補的ステレオタイプは存在
2. 男性においてのみシステム脅威の顕現化が相補的ステレオタイプを強める
3. 主観的社会階層による調整効果は見られない

今後の検討課題

1. 性差は再現するのか
2. ジェンダーと交絡しない形での検討
3. 変動しやすい従属変数で測定（プロファイルなど）